



平成21年5月1日（金）発行 【隔月（年6回）発行】

発行部署 : 陸運事業本部ソリューション部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4620
発行責任者 : 中島 英男
お問合せ窓口 : 古田 泰幸

第81号

【目次】

1. 白石新社長就任挨拶
2. 低公害車の導入に係る補助制度について
3. エコタイヤについて
4. 2008年度の「物流効率化」の提案実績について
5. 衛星場所自慢 Part2 ~第13回 騎西営業所~
6. 三菱マーケティング研究会活動について



1. 白石新社長就任挨拶

三菱化学物流(株) 取締役社長 白石 秀典

この4月に、大森の後を引き継ぎ社長の大役を仰せつかりました。本誌をご愛読戴いております皆様方におかれましては、引き続きご愛顧賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

さて、私は、今、世界で最も活力がある、シンガポールと中国（上海）での勤務を経験し、昨年帰国いたしました。それと同時に、わが国の経済は、欧米景気の悪化などを背景に大幅な景気後退が始まり、大きな環境変化の局面を迎えました。

私共の業界におきましても、荷動きの大幅な縮小により「未曾有の危機」の様相を示しております。そのような厳しい事業環境の中、私は今こそ敢えて原点に戻り、「安全・QA・安定輸送」の再点検・徹底を図りシステム化、ネットワーク構築等、「物流の足元を固める」ことが最優先だと考えております。その上で、物流という側面から荷主企業の事業構造のグローバル化推進、競争力強化に貢献していくことが私共にとって重要な使命だと思っております。

米国のオバマ新大統領は、「新たな責任の時代」と訴え、各自がそれぞれに義務を果たせ、と呼び掛けました。今日我々が直面する激動の時代を切り拓くべく、物流業界は改めてその真価を問われております。物流を軸に販売や生産等の全領域の構造や仕組みに切り込み、抜本的な手法でコストを削減していくことや、製品の安全・安心を確保するための物流品質の向上と、そのトレーサビリティの確立等が喫緊の課題と考えております。

私共は、永年の経験で豊富なロジスティクス・ソリューションのノウハウを蓄えて参りました。「信頼されるソリューションプロバイダー」として確固たる3PL事業会社を目指し、物流効率化に積極的に取り組み、お客様の競争力強化に少しでもお手伝い出来ればと考えている次第です。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



2. 低公害車の導入に係る補助制度について

国土交通省は、大気汚染及び地球温暖化問題の改善を図るため、平成14年度よりバス・タクシー・トラック事業者に対し、CNGバス・トラック等低公害車導入による補助を開始し、平成20年度までにバス約900台、タクシー約200台、トラック約23,000台の補助を行っています。平成21年度については4月1日に「平成21年度低公害車普及促進対策費補助金交付要綱」が施行され、新たに①クリーンディーゼルバス・タクシー・トラック、②電気自動車バス・タクシー・トラック、③ディーゼル低燃費バス・トラック、④LPG低燃費タクシー、⑤LPGバス・トラックの導入に対する補助が追加されました。物流における二酸化炭素排出量12億トンのうち約9割が自動車に起因しています。この補助制度対象追加により更なる環境改善が図れると考えられます。

また、平成20年度までは上記補助制度と併せてCNG車の普及促進を目的とした「CNG車普及促進モデル事業」及び「CNG車試行運行実験事業」を実施していましたが、平成21年度よりハイブリッド車・電気自動車を追加し、次世代自動車の導入を目的とした「次世代自動車導入加速モデル事業」を実施することになっています。

| 補助対象(※1) | 補助率 |
|---|----------------------------|
| 新車の導入 | 車両本体価格の1/4又は通常車両価格との差額の1/2 |
| CNGトラック・バス等 〈拡充〉総重量2.5t以下も対象化 | |
| ハイブリッドトラック・バス等(※2) 〈拡充〉総重量3.5t以下も対象化 | |
| クリーンディーゼルトラック・バス等(※3) 〈新規〉 | |
| 電気自動車〈新規〉 | |
| ディーゼル低燃費トラック・バス等(※4) 〈新規〉 | |
| LPG低燃費タクシー(※5) 〈新規〉 | |
| LPGトラック・バス〈新規〉 | |
| 使用過程車のCNG車への改造 | 改造費の1/3 |

- (※1) 最低台数要件原則バス:2台 トラック:3台
 (※2) 新長期基準よりNOx10%・PM50%低減した車両
 (※3) ポスト新長期規制に適合する車両
 (※4) 2015年燃費基準に適合する車両
 (※5) 2010年燃費基準に適合する車両

国土交通省ホームページより引用

3. エコタイヤについて

エネルギー消費の効率化とCO2排出量削減による地球温暖化防止を目的として、低公害車の導入が進められています。その一環として平成21年4月よりエコカーの減税がスタートしました、また一部の地域ではエコタイヤの購入に対する補助制度もスタートしています。ガソリンに代わる燃料を使用した自動車本体だけでなく、最近では燃費向上効果を得たタイヤつまり『エコタイヤ』にも注目が集まってきています。

各タイヤメーカーで唱えている『エコタイヤ』の主な特徴は2つあります。

① 転がり抵抗を低減している。

② CO2排出削減のために石油外資源(天然素材)を使用している。

①は転がり抵抗を低減させることで、走行時の抵抗を減らし、ガソリンの消費を抑え燃費を向上させます。また二酸化炭素の排出量も削減できます。②はタイヤ素材を石油外資源に置き換えることでタイヤ廃棄の際発生するCO2排出量を削減します。

当社グループにおいてもエコタイヤを既に導入しています。導入後は様々なデータを取り、導入による効果の確認を進めています。このように当社グループではエコタイヤを導入することにより、CO2排出量削減に努めています。

※国からの正式発表はありませんが、2007年度エコタイヤ普及率は10%程といわれています。

また、経済産業省及び国土交通省では、転がり抵抗の測定方法の規格化、情報提供の方法等について、統一的な基準を検討するための『低燃費タイヤ等普及促進協議会』を設置し方向性を取りまとめると発表されました。(2009年1月)

4. 2008年度の「物流効率化」の提案実績について

当部が担当しております2008年度の「物流効率化」の提案実績は約20件になります。

新規のお客様だけでなく、既に当社が業務を受託しているお客様にも「物流効率化」の提案を行い、2008年度も多数のお客様から高評価を頂いております。当方の効率化検討の特徴はコンサルティングに留まらず必要に応じ、提案した内容を実現する為にプロジェクトを立ち上げ、新規業務受託の準備や既存のお客様の効率化の実行に向けて取り組んでいくことです。

検討を行う際はまず、取り進め・検討範囲・手順のプレゼンを行い、「輸送」「構内・倉庫作業」「仕組みや管理体制」「在庫」の4分野の中から、お客様に検討分野を決定していただきます。その後検討範囲に応じた現地調査・ヒアリングを行い、ご提示いただいたデータを基に作業量・作業負荷或いはコストを数値化して、物流の実態や改善策の「見える化」を実現しています。

解析ソフトの充実にも力をいれており、2008年度は「在庫シミュレーション」「ビデオ編集」ソフトの導入及び構内・倉庫作業の

「解析ソフト」のバージョンアップを実施しております。詳細につきましては、次号以降本紙で紹介致しますがこれらを使い、今後も提案内容の向上、よりわかりやすいプレゼンの実施に努めてまいりますので、今後とも当社及び当部をよろしく願い申し上げます。

2008年度の主な「物流効率化」の提案事例

| 提案先 | 物流規模 | | 分野 | | | | 効率化率 (ロス率) | 検討人役 | 検討期間 |
|-------------|------|----|----|----|----|----|---------------|------|------|
| | 工場 | 倉庫 | 輸送 | 構内 | 仕組 | 在庫 | | | |
| A化学メーカーA事業部 | 2 | 15 | ○ | ○ | | | 6% | 4 | 5ヵ月 |
| A化学メーカーB事業部 | 1 | 26 | ○ | | | | 24% | 4 | 5ヵ月 |
| C化学メーカー | 1 | 4 | ○ | | | | 16% | 2 | 3ヵ月 |
| D化学メーカー | 1 | | ○ | | | | 7% | 2 | 2ヵ月 |
| E樹脂メーカー | | 2 | ○ | ○ | | | 10% | 3 | 2ヵ月 |
| Fフィルムメーカー | | 11 | ○ | | | | 3% | 4 | 4ヶ月 |
| Gフィルムメーカー | 1 | | | ○ | ○ | | 20% | 2 | 3ヵ月 |
| Hフィルムメーカー | 3 | | | | ○ | | 19% | 2 | 4ヶ月 |

5. 衛星場所自慢 Part2 ～第13回 騎西営業所～

騎西営業所は、平成16年4月埼玉県北埼玉郡騎西町に開設され、食品パック・トレーの主要メーカーであるC社埼玉県内3工場の生産品の取扱及び関東1都6県向け配送業務を担う、C社の物流中核拠点です。

騎西町は、群馬県、栃木県、茨城県に隣接する埼玉県北東部に位置し、一面田圃ののどかな田園風景が広がっています。秋から初春にかけては、富士山、浅間山、赤城山、男体山、筑波山と名峰が一望できます。近くにはJR高崎線(鴻巣駅)、宇都宮線(久喜駅)、東武伊勢崎線(加須駅)、東北自動車道(加須IC)が走っており、交通の利便性が高い場所でもあります。気候は、夏には40℃以上(一昨年)の記録的な猛暑に襲われたり、冬は「赤城凧」が吹き荒れるという、典型的な関東内陸型気候を呈しています。騎西町周辺でご紹介させて頂くとすれば、やはり「うどん」と「地酒」かと思います。周辺は有数の小麦の産地であり、「うどん」が名物です。「讃岐うどん」ほど太くはありませんが、「こし」があり美味しいです。特に加須市久下にある「久下屋修兵衛」のうどんはお勧めです。また町内には2軒の造り酒屋があり、2軒とも全国新酒品評会で金賞を受賞するほどの「美味しいお酒」を醸造しています、お勧めは釜屋の「釜屋新八」と清水酒造の「大吟醸花菱」です。特に「花菱」の透きとおったフルーティーな味は、格別ではないでしょうか。騎西町はその他、ゴールデンウィークに催される玉敷神社の「藤まつり」が有名で、かなりの人出で毎年賑わっています。また近くに騎西城もありますので、近くにお越しの際は、立ち寄ってみては如何でしょうか。



騎西城



藤の花



玉敷神社

6. 三菱マーケティング研究会活動について

三菱マーケティング研究会は44年の歴史があり、分科会活動、研修会、特別講演会を通じて三菱グループ内の異業種交流、共同研究を行なっています。分科会活動は6つの分科会に分かれており昨年度当社は、第2分科会「ビジネスプラットフォーム(IT・ロジスティクス)」及び第6分科会「ブランド・デザイン・コミュニケーション」に参加いたしましたが、ここでは第2分科会の活動についてご紹介いたします。

昨年度の第2分科会では、三菱グループ会社10社24名が3グループに分かれ、「物流の最前線でロジスティクスを考える」をメインテーマとして3月の分科会総合報告会まで1年間活動を行いました。4月のキックオフミーティング後、5月の合宿で親睦を深めつつメインテーマからグループ毎に研究テーマを設定し、最低月1回の活動が行われます。活動は、分科会リーダー及び各グループのサブリーダーを中心に自主的に行われ、企業訪問を行うか、有識者へのインタビューを行うかはグループ単位での交渉になります。昨年度は食品・素材・機械等の各メーカーや物流企業等に対し多くの企業訪問を行うとともに、学識経験者への訪問インタビューも行いました。

3月24日に三菱総合研究所にて行なった分科会総合報告会の各グループの研究テーマは以下の通りです。

- ・Aグループ「求貨求車システムの将来性」
- ・Bグループ「日本における地下物流の可能性」
- ・Cグループ「物流における環境対策としてのモーダルシフトの可能性」

～モーダルシフトの導入拡大は本物か？～



南本牧コンテナターミナルの見学



分科会総合報告会での発表

編集後記

ソリューション部 白石 弘美

◆今年の本社の新入社員に「白石君」がいる。なんと同じフロア約200名中、白石新社長以下同姓が5名。以前多かった「田中」「山下」姓を抜き、トップでは？！「田中」「山下」姓の方々は、周りから下の名前(ファースト・ネーム)で呼ばれていた。「白石」姓もそうになると、私はちと困る。「ひろみちゃん！」と呼ばれそう。男なもので・・(笑)。

◆今号は、エコタイヤ・低公害車補助等、低環境負荷への取り組みにつき特集いたしました。切迫した地球環境問題に対して、循環型社会を形成する枠組み作りが「待ったなし」の課題ですね。私も最近環境省が提供する「エコファミリー」に登録しました。企業としても個人としても、少しでも効果があるものについては、「即実施！」の風土作りがまず必要ですね。